

平成24年度「市長の秋葉区ミーティング」の概要 (市長と区自治協議会委員との意見交換)

- ・日時 平成24年11月9日(金)
午前9時30分～10時50分
- ・会場 秋葉区役所6階会議室

【発言1】「秋葉区文化会館の環境整備について」

秋葉区の区民として文化会館が来年9月に完成することを喜ぶと同時に、一人でも多くの方から喜んで使ってほしいと願っている。

初めに、文化会館へは国道403号線からのアクセスが主であると思うが、案内も難しい。もし県の施設を通過できれば、文化会館だけではなく区役所へのアクセスもスムーズに行くのではないかと感じる。配慮してもらえないか。

文化会館へ新津駅から徒歩で約15分かかるが、楽器等を持って歩くと考えると少し遠いのではないかと感じる。新津駅から新津車両製作所までJRの線路が通っているが、イベント時などに臨時列車を運行することはできないものか。行政の力だけではなく、例えばJRの退職者の協力等、市民の力で運行できる可能性がないか、アドバイス等あればいただきたい。

文化会館のオープニングイベントを行うが、秋葉区ならではの企画をして、開館1年以内に殆どの方に足を運んでもらいたいと考えている。例えば坂口安吾の御子息、坂口鋼男さんの記念講演や琵琶湖周航の歌の作曲者「吉田千秋」にちなんで加藤登紀子さんから琵琶湖周航の歌を歌っていただけたらと考えています。特に加藤さんはビュー福島潟の名誉館長でもあり、市長からも後押しをいただけるとありがたい。

【市長】

面白いアイデアを発言いただいた。

道路の改善については、新潟県地域振興局の敷地内、駐車場として使用している部分を通る必要があり、例えば休日のみ通行可能にする等は安全面等様々な問題があり難しいと感じている。まずは案内の道路標識をしっかりと作る必要がある。

臨時列車については、営業路線の中に臨時停車駅を作ることは今までも例があるが、この場所は一般路線ではないためハードルは高い。しかし、新津車両製作所一般公開の時にでも特別に臨時列車を運行してもらえないか意見交換してみたい。

オープニングイベントについては、10月に企画運営スタッフの公募をおこなったと聞いていますが、秋葉区の特徴を生かしたオープニングについては、私も期待している。

坂口鋼男さんの講演会や、安吾賞の受賞者から参加してもらおう等、秋葉区の歴史や伝統を活かしたイベントもおこなってもらえると嬉しい。

【発言2】「秋葉区民と秋葉区自治協議会に向けてメッセージを」

私はこの場で、市長から激励と希望あるメッセージをいただくことをお願いします。

1つ目は秋葉区民に向けて、2つ目は、秋葉区自治協議会に向けてお願いします。

5月『まちづくりトーク in 秋葉区』において、市長は「秋葉区は個性がある地域」と最後に話されました。

秋葉区には、他の区にない地域資源、歴史的資産、産業等もあります。一方で、まちなかの活性化、少子高齢化、防災、公共交通問題など現代課題も抱えています。

自治協議会の各部会は、これらを切迫した課題と受け止め、提案事業にとりあげて着々と進めております。それ以前に、区民として団体、企業、個人それぞれの立場で意見を出し、行動していることは衆知の通りです。

区民のその思いを後押しするためにも、新潟市の中で秋葉区が担っていくべき役割とは何か、何を期待されているかをお聞かせ願います。

もう一点は、自治協議会へのメッセージを要望する理由です。

秋葉区自治協議会では、毎月の定例の協議会に加え、各部会の提案事業はもとより、委員の推薦母体における活動等にそれぞれ力を尽くされています。日々の仕事や家庭に時間に費やすべき時間を削っても、区民と協働して活動しております。

8月9日に、区への依存ばかりでなく、自治協議会自らも活動を広報すべきと考え、瓦版を作成し道行く人に手配りをしました。同時に、秋葉区自治協議会の認知度について街頭アンケートを行った結果、82%（139名中114名）が秋葉区自治協議会を知らないと答えました。私は、この事実を8月の自治協議会において、82%も伸びしろがあると前向きにとらえるべきだと報告しました。

もう一方、各部の提案事業と市の事業や検討中の課題との繋がりが無い事を危惧する意見が自治協議会でもでています。市からの例えば検討委員会の設置や市の事業の報告を、事後に受けることは、自治協議会の存在意義を疑問視する意見がでることも当然と思います。

例えば、鉄道の町の中核をなす鉄道資料館が、まちなか活性化をテーマとする第1部会の提案事業と関係する事はないのでしょうか。市との繋がりも区民との繋がりも薄く感じてしまいます。

確認の意味でお聞かせ下さい。今の秋葉区自治協議会は、設置目的を全うしているのでしょうか？

この程度の認知度であったとしても、着々と進める自治協議会の委員や区役所職員、そして心ある区民の思いが萎えることのないよう、秋葉区自治協議会への市長から励ましの言葉を頂きたいと思います。

【市長】

秋葉区は高齢化率が比較的高い中で、地域福祉の取り組みが非常に進んでいると感じる。高齢者だけではなく、障がい者福祉に関しても、秋葉区が先頭にたっている。障がい者雇用の促進への取り組みも秋葉区から始め、今は市全体で取り組む事業となっている。

また、観光交流に関しても秋葉区は特徴がある区であり、鉄道や花、石油を始め小須戸の町屋など観光交流の部分で市としても大きな特徴となっている。

自治協議会については、まだまだ市民への認知度が低く、御苦勞をかける部分も多いと感じている。合併建設計画等の区独自の事業に関しては自治協議会に意見を求め、例えば合併建設計画を変更する等は自治協議会の意見をもとに行うことになる。

鉄道資料館については、西蒲区と秋葉区をモデルに、文化施設が有効活用されているかを点検した結果、いくつか有効活用されていない施設があり、その中でも鉄道資料館は全市の的に見ても

アピール力の強い観光交流施設であるとの意見が多くあり、全市的取り組みとして鉄道資料館のリニューアルに取り組み始めた。

鉄道資料館は、子どもへの認知度が非常に低い状態であり、秋葉区の中でも認知度が高いとは言えない状況にある。せっかく良い資料があるのに、例えば大宮の鉄道博物館との連携もない。これを区事業として改善することは難しいと判断し市事業として行うこととした。

新潟市にふさわしい都市制度について話をさせていただくと、いくつかの選択肢をお示したいと考えている。国の制度調査会では、行政区にもっと裁量権を持たせるべきとの意見が多く、我々もその方向で行くべきとお話させていただいている。裁量権が機能するためには、区長がどういう存在であるべきかが一番のポイントである。今は、一般職員しか区長になれないが、国でも制度改正について議論されている。区長の選択肢として、一つめは公募を含めた一般職員、次に副市長を区長とすること、3つめが区長公選制という方法もある。今は認められていない制度ではあるが、地方制度調査会でも議論されており、認められるようお願いしていきたい。

区の裁量が大きくなれば、チェック機能として区議会が必要との意見もあると思うが、新潟市には自治協議会があり、自治協議会を強化することでチェック機能となるのではないかとの意見もある。裁量権を大きくすれば、当然チェック機能も大きくする必要がある。

また、現在の教育委員会は区民への説明責任を十分に果たしきっていないと感じている。教育委員会が機能を大きくして、例えば秋葉区担当の教育委員がいれば、自治協議会の教育部会と意見交換をする機会も多くできる。区における教育委員会のチェック機能は自治協議会が望ましいと考えている。

教育に関しても、教育委員会を廃止するという意見もあるが、廃止するのであれば、その替わりをどうするのか、機能を強化するにはどういう方策があるのか、それらをお示ししたい。

これらを考えても、今後はさらに自治協議会がの役割・存在意義は高くなると感じている。自治協議会提案事業も来年度は増額したいと考えている。自治協議会が区役所とともに様々な事業を行う事で、存在意義も責任も増していくと思う。

【発言3】「自治協議会第1部会の取り組みについて」

新津中心商店街は近年著しく衰退してきています。空き店舗も急速に増加し、ますます商店街としての魅力を失ってきている。商店連・商工会議所は商店街の「にぎわい」を取り戻そうと「にいつ食の陣・あおぞら市場・ハロウィン仮装祭・新津鉄道まつり」等の取り組みをすすめている。

しかし衰退の傾向に歯止めがかかり、にぎわいが戻りつつあるとはなっていない。秋葉区自治協・第一部会ではこうした現状を踏まえ、「こうすれば元気がでるのでは」と考えている皆さんに積極的に参加いただき、9月15日に第一回「にいつまちなかワークショップ」を開催した。当日は一般参加者37名・関係者あわせて50名を超える皆さんが参加され、真剣な話し合いがされた。

そこでの意見の整理と課題実現の具体化はこれからですが、いくつかご紹介させていただく。

最初に、新津駅前商店街のアーケードの老朽化についてです。アーケードは老朽化が激しく、また、50%を超える空き店舗を抱える中でリニューアルする力がなく、固定資産税や税の負担さえ厳しく、取り壊すことになったと聞いています。新津駅を降りてアーケードもない商店街が並ぶのはどうなのか。行政とともに一緒に考えていきたいとの意見がありました。

次に、駐車場問題です。昨年の市長ミーティングでも話がありましたが、新津のまちなかでは

駐車場がなくて困っている。地域交流センターにも駐車場はない。民間駐車場がいくつか増えてはいるが、しっかりとした駐車場が必要なのではないかとの意見。

次に、観光案内センターについてです。新津の宝物を活かすために様々な意見が話し合われましたが、新津駅をでたら、すぐに目につく大きな観光案内所の設置が必要との話があった。

その他にも、新津川と商店街とのアクセス整備や高齢化に対応した方策について多くの意見がありました。

【市長】

鉄道資料館リニューアルの中で、新津駅前へのサテライト施設を考えている。これが観光案内機能も持つこととなります。資料館リニューアルが、まちなかの活性化に繋がることも期待している。

また、アーケードに関しては、行政で全て行う事は不可能であるが、現在の補助制度を利用してほしい。また、駐車場に関しては、民間駐車場もあり、ここで行政が駐車場を用意することが民業圧迫になる可能性もある。地域交流センターに関しては、徒歩5分程度の場所に無料駐車場を用意しているので利用していただきたい。

高齢化についても対応する必要がある。施設だけでなく在宅介護の強化にも力を入れる必要がある。その中で、例えば、空き家を利用して周辺の医療機関・福祉機関と連携して在宅介護の拠点とできないか等のアイデアもある。いくつかモデル的にやっていきたい。

【発言4】「自治協議会第2部会の取り組みについて」

秋葉区は高齢化率が市内で最も高く、社会福祉の面からも公共交通整備が急務と感じ、秋葉区自治協議会では3年前から対策を検討している。特に高齢者の通院と買い物に対する対策が必要であり、今年度は12月から、住民バスの社会実験を行う予定としている。

アンケートの結果からも、将来の移動手段に不安を持つ区民は多い。

これからのまちづくりは行政依存だけでなく、市民協働で進める必要がある。また、収支率にこだわらず、採算性が低い交通空白地帯ほど公共交通が必要な地域である。「収支率30%未満廃止」の方針を見直してほしい。また、公共交通問題は区単独での解決は限界がある。区を超えた視点での対策が必要であり、市全体の課題・問題としてとらえ、調整機能を発揮してほしい。また、8区合同の検討委員会設置も必要。

【市長】

自治協議会の提案事業として、住民バスの社会実験を実施いただけるとの事で、社会実験は、我々も大きな考える要素になる。

区バスは一定の目安として、収支率30%と言っているが、収支率30%未満の場合は廃止というわけではなく、利用しやすい区バスを促進するためにも一定の目安として設けている。

また、区バス・住民バスについては、今後も区役所と自治協議会で良く考えて、より良い方向性を導いて欲しい。

【発言5】「自治協議会第3部会の取り組みについて」

災害時に避難所としての学校と地域の関わりをテーマに第3部会は活動している。

災害が起きた時に、子ども達や地域住民が一緒になってスムーズに避難するためのマニュアル作り・組織づくりが必要である。

新関地区で学校と地域が連携した避難についてマニュアルを作成し、そのマニュアルに基づいて避難訓練を行った。

【市長】

既に新関地区では、具体的な訓練も行っているとのこと、ありがたいと感じている。他の事例でも、実際に訓練を行っているかどうかは、災害が起きた時に被害に大きな違いがある。

避難訓練は、繰り返し行う事が重要。この取り組みを継続して行ってほしいと考えている。

避難所についても、洪水の時を地震の時では異なってくる。これらも十分お示しして、それを踏まえた訓練を継続してほしい。

たいへん素晴らしい取り組みをおこなっていただき感謝している。